

**こぶしだより**

1994年9月30日

発行 - 第172号

こぶし作業所

宇都宮市柳田町1401

☎0286(62)1911

# 「社会福祉法人こぶしの会」 長期整備計画策定委員会

## 廃油石けん事業を中心に検討

社会福祉法人こぶしの会では、法人の将来について長期的な展望をもとに、事業施設の整備について検討し、計画を策定する委員会を設けました。この委員会は、法人の長期整備計画書を作成し、法人理事会に提出をする役割をもち、委員は理事会の決定により理事長から委嘱されています。委員の構成は次のとおりです。

- 委員長** 藤田 勝春 (弁護士・法人理事)
- 委員** 住谷 佳裕 (こぶし作業所 所長)
- 平石 利夫 (農業・民生委員・法人理事)
- 池本喜代正 (宇大助教授)
- 橋本道子 (盲学校教員)
- 高山 正行 (とちぎコープ 組織担当課長)
- 奇藤 操 (こぶし作業所 連合保護者会長)

- 鎌田 政 (けやき作業所 保護者会長)
- 高橋 温美 (こぶし作業所 副所長)
- 成田 高志 (けやき作業所 分場主任)

第一回の会合は、八月二十三日開かれ、各委員の自己紹介、委員長の選任のあと、住谷所長から、この時期において法人の将来構想を検討する意義と委員会の役割について説明があり、さらに高橋副所長から、今後の検討の柱として、施設整備のハード面と考えらるる事項が提案されました。第一回の会合は、委員の顔合わせというところもあり、この提案を受け、フリーマーケットの形で進められました。この案が、廃油石けん事業について意見・質疑が集中しました。同時に、現在のこぶし作業所の入所者処遇、特に重度障害者に対する取り組みの基本的理念の構築の重要性も提起されました。

第二回目の会合は、九月二十日開催されて、第一回目に引き続き、廃油石けん事業を推進する場合の課題として、①現在の施設条件のなかで授産科目の一つとして実施する②新たに分場を設置し、その主力作業として行う③完全に独立した通所施設を建設する等を想定して、それぞれ、長所、短所を比較検討しました。

次回は、十月十八日に開くことが決まり、整備計画の一つの柱であるグループホームの開設、運営について話し合う予定になっております。事務局としては、これまでの検討をもとに近く計画書原案の作成作業に入ることとし、更にこの原案に基づいて委員会の検討を得る計画書とします。

〈住谷〉

## 関根くん退所!!

こぶしの関根哲也君が9月10日からは都賀町にある「ひばりの学園」に入所することになりました。関根君は1989年4月1日に、こぶし作業所第一次入所者として入所しました。現在残っている同期生は鶴野君だけです。以後14年半の間こぶしに通い続けました。が、家庭の事情により退所することになりました。お別れ会は30日に行ないます。10月からは川島君が正式に入所します。川島君は今年の3月に栃木養護学校を卒業し、4月からは実習生として通っています。入所式は10月3日に行ないます。

〈田島〉

## 「行政トピックス」改め みんながで大地

上田敏(帝京大教授・リハビリテーション部)という方が「リハビリテーションを考える」(青木書店)という本を著して、その中でリハビリの重要な鍵として「障害の受容」ということを言っている。外形的にはリハビリが達成されていてもこのことが達成されていなければリハビリの目的は達成されないと言っている。

「障害の受容」というのは、「あきらめ」や「居直り」とは異なり、「障害に対する価値観の転換」である。つまり、障害をもつことは、ウィークポイントになるのではないこと。生活経験の中で障害に対する恥や劣等感をのりこえることになりました。お別れ会は30日に行ないます。

〈鬼やんま〉

## 新作業導入

けやき作業所では九月五日からスプリングワッシャーの袋詰め作業を新しく導入しました。市貝町の(株)光生商事さんから、以前よりけやきに仕事を出したいというお話をいただいた。秋からこの仕事を導入させてもらうことになりました。

作業工程は、ワッシャーをまず天びんで計り、それをラベルを貼った小袋に入れ、ホッチキスで止めるというものです。リサイクルの直井君、奇藤健さん、関本さん、奇藤宗一君の4人のメンバーで取り組んでいます。

最近では作業にも慣れ、みんな楽しく、しかも真剣に取り組んでいます。頑張るマッパケージ班の収入に追いつこうと張り切っています。

〈塩入〉

# チャリティー絵画展開く

—ドン・ハット・フィールド画伯の  
サイン会で賑わう—

八月二十一日から二十四日 続いて二回目の企画で、昨年は最初というにもあり五百万円を越える売上があり、純益も五十万円になりました。二回目の催しに比べ、この来場者があり、売上がいくら位になるか予想がつかず不安でしたが、かなりの方々が会場に足を運び、収益も二十五万円を越え、ますますの成績でホッとしました。



「のびやかなる江」

開期中に浜辺で遊ぶ母子像で有名なドン・ハット・フィールド画伯が会場に見えらう。サイン会がありました。こぶし作業所も、牧師でもある画伯から To Kobuski, May

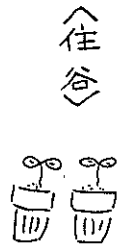


## エッセイ

今年で4回目を迎えた母校豊郷中学校の体験学習。積極的に仲間のおしゃべりを楽しむ人、何個できたかを競い

合いながら作業を楽しむ人、又、パニックを起こした仲間、に突如後ろからつきまとい、笑って語れる人など、生き生きと一日を充実させている後輩たちを見てみると、果たして自分が在学中にこの企画があったらどうだったろうと考えるかもしれません。中学生のうちからこういう経験が出来るこ

God watch over you and protect you. (神があなたたちを見守り、加護されますように)という言葉とサインの入った画伯の代表作のポスターをいただきました。



### 〈住谷〉

とをうらやましく思う反面、自らの屈折した中学時代を思ふとおそらく参加しようなどとは思わなかったような気がします。

そんな私が障害者に携わる仕事をしたいと思いはじめたのは、高校の創立記念日に県南の某施設の園長先生の講演を聴いた時からでした。併せて何と言ったか私に大きな影響を与えてくれたのは、今春看護学校を卒業し、市内の作業所に通い始めたH子ちゃんの存在でした。

3年前、初めての施設見学。重度心身障害児(者)の棟を訪ねましたが、そこでの寮長さんの言葉に私はショックを受けました。「みなさんは、障害」というほどのようなイメージを持っていませんか？(中略)簡単に言ってしまうと、眼鏡をかけている人、眼鏡をかけなければ生活できない。これも障害なのです。その程度に考えて下さい。何も特別なことではないのです。と。コンタクトや眼鏡がなければ

## ひっこしました。

成田さんが益子に引越しました!  
新住所 芳賀郡益子町塙3538-7  
TEL 0285(72)9291

生活できない私も障害を持つている... そう思った時、健常者という立場から同情的な目で障害者を見ていた自分に気がきました。

こぶしに就職して一年半。始めは自分よりも年上の仲間たちとどのようにつき合ったらいいのか悩みましたが、本音で体当たりしてくる仲間たちと日々過ごしていると、今まで見えなかったもの、見過ごしてしまっていたものが見え始めてきました。不思議な気持ちになりました。人と関わることの難しさ、責任の重さにくじけず、まうことも多々ありますが、ゆったりとしたペースの中で互いに教え、教えられる、共に一歩一歩成長していけたら、と思ふ今日この頃です。

### 〈香藤〉



## トピックス

### 感動体験ブナの本(後編)

男鹿半島で食欲を満たし、疲れ気分をリフレッシュさせ、今回の目的地「わらび産」へと車を向けました。

感動体験その2 私たち一行を迎えにくれたのは十数年前とは見違える程きれいに、そして大きくなった「わらび産」でした。

午後から観劇した「ブナのくいた笛」は期待した舞台とはちょっと...という感じもありましたが、さすがに「わらび産」を感じさせるものでした。その夜の交流会もたくさん料理、座員とのふいあい等々盛りだくさんの内容でした。そしてもう一つ、田園地帯の真中にある、木の香りがたつぷりのお風呂(もちろん温泉)称して「ゆほほ」いかにもあつたかどうで、やさしそうで、ゆほほはゆほほ奮闘気になび、たりのネーミングでした。

### 感動体験その3

7月31日。感動の圧巻は、日本第二のブナの巨木を求めたの登山でした。(すぐ近くに日本一のブナもあつたのですが、どちらかはわかりません。聞いて楽な方を選んでしまいました。)いきなり急な斜面

をぼとぼと一直線に登り始め、「こぶは大変なことになった」と思っているところに「こんなかんじが一時の間ぐらいつつ、かな」とガイドさんの言葉で追い打ちをかけられてしまいました。そんな思いをしながらようやく辿りついたブナの巨木。森の奥にどっしりと根を張り、「山を川を、海を護っているのは自分だ」とばかりに立っている姿は、神神しくさえも見えませんでした。

### 〈荒井〉

周りを見渡すとブナの外にも、けやき、栗の巨木が「俺もいるぞ」とばかりに胸をはっていました。

## 10がうスケジュール

